学校における年間サイクル

	年間プロ	セス	学力向上サイクル	生徒指導サイクル	診断的評価	
1 月	次年》	度に定	レディネスを揃える取組 年度末の取組 □「学びのたしかめ」問題の活用 (課題の見られる問題) □当該学年の既習事項の定着の確認と補充 的指導	アセスメントの確立 (ステップ) ①行動には必ず理由(原因)があると考える。 ②その理由を個人と環境との関係の中で見出そうとする。 ③理由を見出すために情報を集め共有す		1 月
2 月	R 定・消 指導	マート 一け課握ン・導作 一は関ビの各計の でを題ビの各計の でのが設種画	□「到達度調査」結果の活用 成果や課題の把握 ・結果分析の共有 ・授業改善ポイントの共有と実践 ・各教科等年間指導計画の見直し 次年度へのたすき □個別支援の体制継続 □営力投現についての情報共有	③理由を見出すために情報を集め共有する。 ④理由を見出せたら、それに対する最善の対応策を考える。 ⑤その対応策を関係者で分担して実施す⑥その実施した結果を振り返って、次のる。対応策を改善する。 ①~③をアセスメント(見立て)、④⑤がプランニング、④~⑥は PDCA サイクルで対応し、関係機関と積極的に連携		2月
3月	D C A		□学力状況についての情報共有 □学校間連携 ・小中連携 ・小小連携 ・幼小接続 ・ 学習支援・教科面談等個別支援の充実	クルで対応し、関係機関と積極的に連携する。 各種調査の客観的な分析・改善策 関係職員・機関との方針、情報共有 春休み中の個別支援・教育相談 不登校児童生徒への支援の手引き活用	県学力到達度調査 問題行動調査 (文科省)	3月
4 月	<mark>1</mark> 回 目	1 年の風く・営 年の風く・営 が的つ年経核	組織的共通実践 質的授業改善の推進 1 □集団指導(ガイダンス) ・学習のきまりごと	生徒指導方針の全職員 による確認と実践 1 □不登校及び問題行動等の初期対応等の 確認	全国学力·学習状況調査 (実施) 標準学力調査·知能検査	4 月
5月	の支属土		・児童生徒のよさの積極的承認 □個別支援(カウンセリング) ・多様な実態を踏まえ、個別に対応した 児童生徒理解支援 「問いが生まれる授業」づくり	□学級ルールづくり、生徒指導方針、学習規律 □学級活動を児童会・生徒会活動を連動させ自治的機能を高める。 連休明け・夏休み前の取組	(実施) 	5月
6月	営と組	中核た取	□授業像の共有 □教材研究充実 □学習を支える力の育成 □学習評価の充実 ・「問いサポ」・授業デザイン MAP の活用 ・授業プランシート・単元プランシート・授業における基本事項	□不登校及び問題行動等の確認(情報共有・早期対応) □自殺予防対策 □長期欠席数、不登校数(継続・新規) 及び問題行動等の情報共有 □課題改善ポイントの共有	県学力定着状況調査1 (学びのたしかめ) 県児童生徒質問紙 (学校質問紙調査)	6月
7 月			言語環境の整備と言語環境の充実	教育相談週間の実施 (1回目)・教育相談 不登校児童生徒への支援の手引き活用	学校評価 (1回目)	7 月
8 月	R - P D	タいとの取にた改検組	課題 改善ポー 課題 改善ポー 課題に対応した校内研修 □取組の成果と課題の確認 □各種調査データの分析と改善策の検討・共有 □教育課程の修正 (指導計画・時数配分等) □個別支援の検討・計画 □授業改善のポイント	プントの共有 課題に対応した校内研修 ・いじめ防止対応・学級経営 ・児童会・生徒会活動 ・夏季休業明け自殺予防対策 ・遅刻・欠席数の共有、対応策 家庭訪問の実施 (見守り体制強化)	全国学力·学習状況調査 (報告書)	8 月
9 月	A		組織的共通実践 質的授業改善の推進1 学習のきまりごとの確認 「問いが生まれる授業」づくり	生徒指導方針の全職員 による確認と実践2 夏休み明けの取組		9月
10 月	2 分をたる	結ま善	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □	□不登校及び問題行動等の確認(情報共有・早期対応) □自殺予防対策	問題行動調査 (結果発表)	10 月
11 月	の取組	ı	# ・授業プランシート・単元プランシート ・授業における基本事項 成果と課題の確認 次年度計画の検討	□長期欠席数、不登校数(継続・新規) 及び問題行動等の情報共有 □課題改善ポイントの共有 家庭訪問の実施 (見守り体制強化)		11 月
12 月			学習支援・教科面談等個別支援の充実	教育相談週間の実施 (2回目)・教育相談 不登校児童生徒への支援の手引き活用	学校評価 (2回目)	12 月